



マダイ (瀬戸内海中・西部系群)

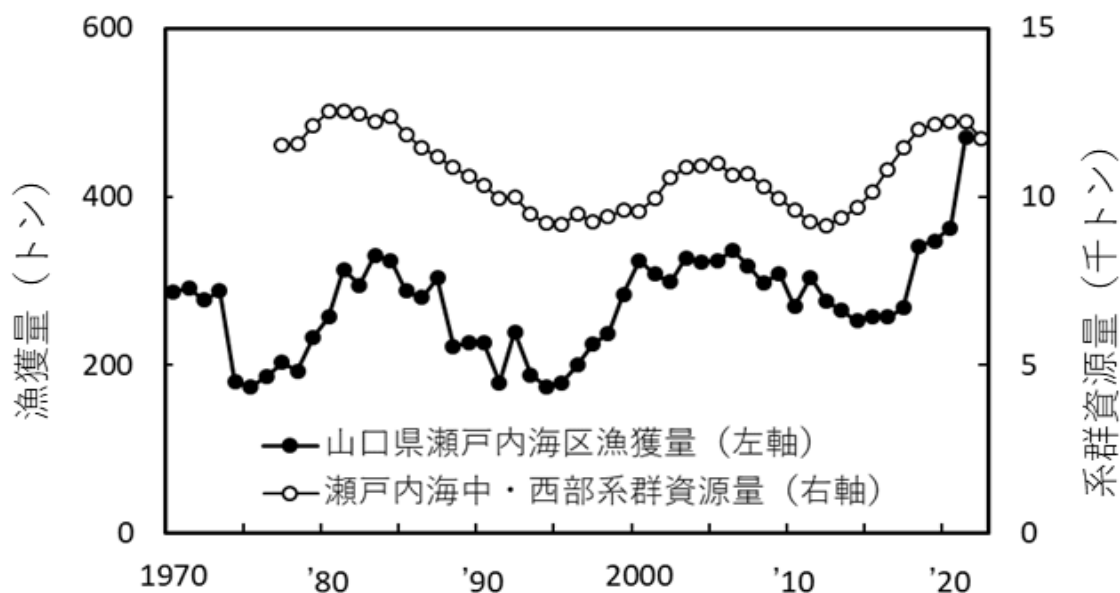


図 山口県瀬戸内海区マダイ漁獲量 (農林水産省統計情報水産業調査 HP) 及び瀬戸内海中・西部系群マダイ資源量 ((国)水産研究・教育機構資源評価報告書) の推移

【漁業】本系群では主に吾智網、小型底びき網 (以下、小底)、釣漁業により漁獲され、瀬戸内海東部系群と比較して吾智網による漁獲割合が高い。2022年は吾智網38%、小底29%、刺網14%、釣り10%、小型定置網8%の比率で漁獲された。

【漁獲量】山口県瀬戸内海区の漁獲量は、1970年から2017年の間に174~336トンの間を増減しながら推移した。2018年以降は三度増加傾向となり、2021年には471トンとなった。

【資源状態】本系群の資源量は1980年に最高値の12,500トンとなり、その後、1995年まで徐々に減少した。1996~2000年は横ばいで推移し、2001~2005年まで増加した。2006年から再び減少傾向となった後、2013年から再び増加している。2022年の資源量はやや減少し11,700トンであった。親魚量の動向は直近5年間 (2017~2021年) の推移から増加傾向と判断される。2022年の親魚量は7,800トンで、MSYを実現する親魚量(SBmsy)5,700トンの1.36倍と上回っている。また2022年の漁獲圧はMSYを実現する漁獲圧の水準を下回っている。

マダイ (瀬戸内海中・西部系群) の資源評価関連指標値等 (単位: トン)

2022年 漁獲量	最大持続生 産量 (MSY)	2022年 親魚量	目標管理 基準値(案)	限界管理 基準値(案)	禁漁水準 (案)
2,444	2,800	7,800	5,700	3,600	200